

第二五回（千葉）講習実施概況

一、実施要領

一、場所

千葉県船橋市藤原町、日本青年協会勝牡鹿農場

二、期間

昭和三十三年一月十七日より一月二十一日に至る五日間

三、実施

別記課目及び講師により実施

二、受講者及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

伯国パラナ州セラドラタ地区

一六

二月二日 あぶりが丸

三、講習担任者

主事 康野 潔

四、講習課目、講師及び時間

課目	時間数	講師氏名	職業
移住者の心構	二	鈴木 政 勝	海協連理事
畜産講義	四	中原 周 三	日本青年協会理事
果樹講義及び実習	四	中原 英 一	勝牡鹿農場長
ぶらじ語	六	西尾 勳	海協連嘱託
熱帯農業	四	宮地 勝 彦	アジア協会職員

開拓管農実習	八	中村孝次郎	海協連理事
組合の運営	二	中原周三	日本青年協会理事
国際教養	四	尾崎竜夫	外務省務官
開拓管農講義	四	高井篤	開拓農協長
農場実習	四	中京英一	勝仕鹿農場長
計	四二		

五、講習の経過

受講者の態度何れも眞面目に終始して所定の講習課目を完了した

六、受講者の考課

受講者が農村生活の経験者のみであるため自主的活動には若干消極的な傾向があつたので自発的に行うように指導したが講義実習の態度は何れも眞面目であつた。

七、所感

受講者は技術者として訓練を受けた者が多かつたので本講習の目的は農業移住者としての素養をつまじめるためであつて何れも優秀な成績をおさめることができた。

第三六回（折木）講習実施概況

一、実施要領

一、場所

折木県宇都宮市上籠谷町 折木県立清原農学寮

二、期間

昭和三十三年二月十一日より二月二十一日に至る十一日間

三、実施

別記課目及び講師により実施

二、受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数（名）

伯国サレバウ州コナア地区

五三

送出予定

四月二日 さんとす九

三、講習担任者

主事

寺神戸

眩

四、講習課目、講師及び時間

課目	時間数	講師氏名	
農業移住者の心構	二	大 関 誠	清原農学寮長
協同組合論	二	篠 崎 淳	県農政課主事
ブラジル農業事情	二	樽 見 平三郎	群馬海協嘱託
渡航注意	二	樽 見 平三郎	
畜産経営（養鶏）	二	永 田 謙 一	宇都宮大教授

畜産経営(養豚)	二	永田謙一	医 師
眼科衛生	三	稲葉六郎	農 学 家 長
畜産加工講義實習	四	大 関 誠	農 学 家 長
熱帯農業	四	林 四 郎	千葉大教授
果樹及び蔬菜	八	内 田 高 良	前宇都宮大講師
トラクタ―講義實習	八	伊 藤 精 延	宇都宮大教授
農業機械講義實習	八	川 島 通 義	
熱帯衛生	二	鐘 田 竹次郎	国立栃木病院長
測量講義實習	六	永 吉 実	農 学 寮 技 手
農場實習	六	田 代 敏	
農機具自動車實習	七	大 関 誠	農 学 寮 長
畜産實習	六	小 川 東 公	農 学 寮 技 手
国際救養	七	沢 田 勝	
語 学	二	末 次 不二彦	河 協 連 任 員
コリア事情	八	尾 崎 竜 夫	外 務 省 務 官
開拓農業経営	二	大 平 清 実	コリア産組理事
ブラジル事情	二	秋 山 英 次	製 林 技 官
	二	尾 崎 竜 夫	外 務 省 務 官

五、講習の経過

嶺冬期と土地柄嶺寒のため風邪患者が数名でたが晴天続で予定通り講義及び実習と終了した。

六、受講者の考課

今回も人事院専門家を煩して移住者の性格テストと実証する外面接に重実をおいたが受講者五三名のうち移住不適格者と認定した者は二名であった。

七、所感

受講者は関東、東北出身者で態度は一般に熱心で自主的に行動したか担当者は長期講習期間中は受講者が講義実習に起伏のないように工夫が必母である。

第二七回(三重)講習実施概況

一、実施要領

二、場所

三重県一志郡嬉野町須賀 三重県立徑宮伝習農場

三、期間

昭和三十三年二月十一日より二月二十一日に至る十一日間

三、実施 別記課目及び講師により実施

二、受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

伯國サハウロ州コチア地区

四三

四月二日 さんとす丸

三、講習担任者

主事 長谷川 勝久

四、講習課目 講師及び時間

課目	時間数	講師名	職名
協同組合論	二	長尾 章	派米協議会職員
果樹栽培	四	藤村 次郎	三重大 教授
病虫害防除	四	石崎 寛	三重大 助教
測量	四	松田 三郎	県 職員
熱帯衛生	二	高崎 浩	三重大 教授
蔬菜栽培	四	位田 藤久太郎	三重大 助教
現地事情	二	服部 新治	コトコト園々主
伯國農業事情	四	松本 圭一	
語学及び国際教育	八	井田 繁一	県海協 職員
伯國一般事情	四	ムロウイニヨリス	伯國 留学生

農場実習	四	東畑幸祐	経営伝習場長
〃	一〇	柳野博	三重県技師
農機具	六	西口秀一	〃
トランク及び自動車	八	西口秀一	〃
畜産(養鶏)	二	岩本菊蔵	〃
〃(養豚)	二	野呂正	〃
畜産加工	二	長崎良樹	〃
〃実習	二	櫻井明	〃
眼科衛生	二	横山実	医師
移住者心構	二	鈴木政勝	海協連理事
開拓農業経営及び現地事情	六	河合恒	農林技官
コチア事情	二	石井延泉	コチア産組職員
渡航注意	二	長谷川勝久	海協連職員
計	八八		

五、講習の経過

厳寒時であつたので健康管理に最善の注意を払つたので全員健康で所定の講習を終了した。

六 受講者の考課

一般に年長者よりも年少者の方がコチア移住者として適格性が多いように見受けられたが講習者全員平均して性格善良であつた。

受講態度、体力テスト、面接等の結果移住者として適格性を欠いていると思われた者六名あつた。

七 所 感

受講者は未日ブラジル人や在伯邦人の講義には極めて強い関心を抱いているので今後講師委嘱の際はつとめてかかる人を活用いたしたい。

第三八回(宮崎)講習実施概況

一 実施要領

一 場 所 宮崎県児湯郡高鍋町 宮崎県立経営伝習農場

二 期 間 昭和三十三年二月十一日より二月二十一日に至る十一日間

三 実 施 別記課目及び講師により実施

二 受講者教及び移住地区別

住住地区

伯国サンパウロ州コチア地区

受講者数(名)

五六

送出于定

四月二日 さんとす丸

三、講習担任者

主事 宮 友 子 代 蔵

四、講習課目、講師及び時間

課 目	時間数	講 師 氏 名	職 業
ブラジル農業事情	二	久野 繁 次	熊本油脂理事
国際救養	二	久野 繁 次	
伯語講義	八	原 口 七 郎	山口油脂協理員
蔬菜園芸講義	二	吉 谷 章	宮崎県技師
果実園芸講義及び実習	四	山 下 淳	
眼科衛生講義	二	雨 池 弘	医学博士
協同組合論	二	東 己 代 治	宮崎県技師
熱帯衛生講義	二	内 田 長 平	宮崎大講師
農業移住者心構	二	浜 田 邦 夫	経営伝習農協長
農場実習	四	永 田 信 興	経営伝習農場技手
農機具講義	二	岩 切 大 三	
実習	四	岩 切 大 三	

トラクター講義	二	岩切大三	
畜産加工講義実習	四	井上作平	経営伝習農場技師
畜産経営講義(養豚鶏)	四	井上作平	
測量講義及び実習	四	橋本安時	経営伝習農場技師
トラクター自動車実習	八	川辺梓	
病虫害防除講義実習	四	今井鉄熊	
畜産経営実習	八	井上作平	
トラクター農場実習	八	川辺梓	
農場実習	四	永友一堺	
移住者心構	二	鶴崎多一	海協連理事
獣帯農業	二	内田重雄	海協連嘱託
コナア事情	二	千浦節	海協連参与
ブラジル事情	二	千浦節	
開拓経営	二	熊条誠	製林技師
計	九二		

五 講習の経過

好天に恵まれ所定の講習を完了した。

六 受講者の考課

受講者は体力において総体的に小型の印象を受けたが講義実習では他の講習会の受講者に比べて優劣はなかった。

七 所 感

規律が勵行されたことと全員健康であつたことは移住後も非常に役立つことと思われた。

第二九回（香川）講習実施概況

一 実施要領

ニ 場 所 香川県仲度郡琴平町 香川県立経営伝習農場

ニ 期 間 昭和三十三年二月二十二日より二月二十八日に至る七日間

三 実 施 別記課目及び講師により実施

ニ 受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

パラグワイ国フラム地区

二八

四月二日 〆んとす九

CAFE地区

一四

計

四二

三、講習担任者

嘱託 高橋 常雄

四、講習課目、講師及び時間

課目	時間数	講師氏名	職 業
農業移住者の心構	二	中村 嘉 香	経営伝習農場長
雨水事情	二	芦沢 安 平	油協 迎 駟 員
渡航注意	四	眞 鍋 正 行	香川県農地開拓課長補佐
開拓農協の運営	二	岩 崎 英 二	県農政課技 師
主要作物講義	二	梓 山 春 光	県農政改良課技師
畜産講義	二	二 宮 正 朗	県畜産課長補佐
工芸作物講義	二	石 丸 明 重	県煙草試験場長
国際救養	二	今 雪 直 一	県移住協会副会長
語 学	六	カミミロエルナンデス	香川大学講師
蔬菜栽培講義	二	笠 井 忠 行	県農政改良課技師
果樹栽培講義実習	四	森 正 義	農事試験場 長
自作農維持資金の利用について	二	谷 本 和 志 一	県農地開拓課
農機具トラクター講義実習	一 二	中 村 忠 次 郎	四回農業試験場員
畜産加工講義及び実習	六	村 井 友 栄	県農業改良課技師

熱帯衛生	二	宮武達二	衛生研究所長
簡易建築講義実習	四	川口正男	建築課技師
現地事情	二	杖也要	農友会派伯青年
農場実習	一二	磯崎恭夫	伝習農場技師
熱帯農業拓殖地経営	四	内田重雄	海協連嘱託
計	七四		

五 講習の経過

講習は至極順調に経過して全課目完了したが外人神父による回廊教養と語学最近帰朝者の現地視察談は受講者に多大の感銘と与えた。

六 受講者の考課

受講者の講義及び実習成績は頗る優秀であつた。

七 所感

今回の受講者は高知県出身者が大部分であつたため班別組数等についても講義冊冊に違つた。講習期間が短かい場合は実習に重きを置いて実習しつつ講義をすると云う方法が効果的ではないかと思料した。

第三十回（香川）講習実施概況

一 実施要領

一、場 所 香川県仲度郡琴平町 香川県立経営伝習農場

二、期 間 昭和三十三年三月十八日より三月二十四日に至る七日間

三、実 施 別記課目及び講師により実施

二、受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

伯国コーヒー園地区

二四

五月二日 ぶらじる丸

ドミニカ国下ヴェルジエ地区

三

ハラバコア地区

三

計 三〇

三、講習担任者

主 事 中谷 静 雄

四、講習課目、講師及び時間

課 目	時間数	講 師 氏 名	販 業
国際教養と宗教	二	カシミロ、エルナンデス	沖父香川大講師
農業経営	二	中村 嘉 香	経営伝習農場長

熱帯農業	二	戸次安平	元南洋庁農場長
工芸作物	二	戸次安平	
中南米事情	二	杖池要	香川移住協会嘱託
熱帯衛生	二	宮武達二	香川県技師
農機具講義実習	六	中村忠次郎	四国農試場委員
トラクター講義実習	八	中村忠次郎	
トラクター実習	六	磯崎恭夫	農場職員
協同組合論	二	岩崎英二	香川県技師
自作農創設資金	二	神高敏雄	
畜産加工講義実習	四	村井友栄	
養鶏	二	石田昌一	
果樹講義及実習	四	森正義	分場長
蔬菜講義	二	笠井忠行	香川県技師
養豚	二	多田羅昌	
移住者心構	二	末次不二彦	海協連職員
語学	六	高島辰雄	外務事務官
トミニニカ事情	二	高島辰雄	
トミニニカ農業事情	二	近藤章	農林技官

五 講習の経過

講義及び実習は予定通り全課目完了した。

六 受講者の考観

受講者の受講態度も頗る熱心で講義と實際に結びつけて研究するという有様で、例えはコーヒー園は傾斜面にあるとききは肥料はなれた四圍裏手試験の山腹のケールブルを見に行くとか、煙草が適作とききは近くの乾燥場を見学する等物の考え方が實際的であつた。

七 所 感

受講者が講習の目的とよく理解して常に講義と實際と結びつけて研究するよう指導することが担任者として所要である。

第三回(山口)講習実施概況

一 実施要領

一 場 所 山口県防府市牟礼、山口県立経営伝習農場

二期間 昭和三十三年三月十九日より三月二十五日に至る七日間

三 実施 別記課目及び講師により実施

二 受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

バラグワイ国フラム地区

一九

五月二日 ぶらじる丸

ポリビヤ国サンホアン地区

一一

計

三〇

三、講習担任者

主事 藤野 潔

四、講習課目、講師及び時間

課目

時間数

講師氏名

職名

農業経済

二

松井 勇 男

経営伝習農場長

農業移住者の心構え

二

鷗崎 多一

海協道理事

ポリビア事情

四

南坊 進 策

農林技官

パラグアイ事情

四

眞鍋 正 行

香川県海外協会職員

現地事情(市場)

二

眞鍋 正 行

熱帯農業

二

南坊 進 策

農林技官

拓殖地経営

二

南坊 進 策

園芸講義及び実習	六	伊藤 梨	山口県技師
協同組合論	二	宮原 子慶	
養	二	竹末 与	種綱場長
養豚畜産一般	二	土田 正治	山口県技師
畜産加工講義実習	四	土田 正治	
自作農創設維持資金について	二	柴崎 光	
国際救養と宗教	二	原口 七郎	山口海協職員
語 学	四	ベニノワグネル	カトリック神父
農機具講義実習	四	横山 信一	外務事務官
トラクター講義実習	六	奥原 時雄	山口県技師
移住地住宅の建設	三	樽見 平三郎	伯国耕地主
熱帯衛生	二	竹本 寛	県立中央病院内科部長
渡航注意	二	藤野 潔	海協連取員
農場実習	六	和田 司郎	山口県技師
計	六七		

五、講習の経過

講習後半期に家事のため退所を願いてた者があつたが所定の講義及び実習を完了した。受講者の考課

講義内容として現世事情、農業機械操作等に重点をおいて実施したが受講者一向と眞剣な気持で講義及び実習を受け予期以上の成果をおさめた。

七、所感

山口講習所では今回はじめて講習を実施したが県及び山口両協の協力でパラグワイ、ホリビア兩國移住者の混合講習であつたのにも拘らず充實した講習を行うことができた。

第三三回（栃木）講習実施概況

一、実施要領

一、場 所 栃木県宇都宮市上籠谷町 栃木県立清原農学寮

二、期 間 昭和三十三年三月十九日より三月二十五日に至る七日間

三、実 施 別記課目及び講師により実施

二、受講者数及び移住地区別

移住地区

受講者数(名)

送出予定

伯国サンパウロ州サンセバスチオン地区 一九

服部耕地 六

計 二五

五月二日 あるぜんちん丸

三、講習担任者

主事 竹中仙三

四、講習科目、講師及び時間

課目	時間数	講師氏名	転業
トラクター講義実習	八	伊藤精延	宇都宮大、助手
熱帯衛生	二	鐘田行次郎	国立病院々長
畜産講義	四	永田謙一	宇都宮大、教授
ブラジル一般事情	二	本間剛夫	日伯中央協会嘱託
国際救養	二	本間剛夫	
語学	四	本間剛夫	
製菓具講義実習	六	川島通義	宇都宮大、教授
南米事情	二	関弘	本村海
園芸	六	内田高良	前宇都宮大教授
農林業	四	柳沢秀彦	日東化学KK取員
共同組合運営	二	音羽誠	栃木県農政課員

ブラジル農業	二	柳見平三郎	伯田農場主
渡航注意	二	柳見平三郎	
畜産加工講義実習	四	大関誠	農学寮々長
拓殖経営	二	大関誠	
農賜実習	六	大関誠	
畜舎管理実習	六	沢田勝	農学寮職員
農機具運転実習	六	田代敬治	
移住者心構	二	仲内憲治	海協連理事長
農業経済	二	碓氷茂	海協連理事
渡航注意	二	竹中仙三	海協連職員
計	七六		

五 講習の経過

所定の講義及び実習を事故なく完了することができた。

六 受講者の考課

全員真面目で心身共に適格者揃いで何れも優秀な成績をあげることができた。

七 所感

講義内容については各講師の苦心は見受けられるが、今一段と平易であることと一回二時間の連続講義は受講者をあかせないよう講師の創意と担当者の講義時間調整が望ましい。

7
1012